

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
150	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Beyond HDL-cholesterol increase: phospholipid enrichment and shift from HDL3 to HDL2 in alcohol consumers HDL コレステロール増加を越えて: アルコール消費者におけるリン脂質の増加と HDL3 から HDL2 へのシフト	
執筆者	
Schäfer C, Parlesak A, Eckoldt J, Bode C, Bode JC, März W, Winkler K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Lipid Res. 2007 Jul;48(7):1550-8.	
キーワード	
アルコール消費、コレステロール	
要旨	
<p>適量飲酒による心疾患の減少は主に HDL コレステロールの増加によるものと考えられている。本研究では HDL の質的変化が抗動脈硬化作用を増大させる可能性を調べた。249 名の健常な男性でアルコールと栄養摂取を調べ、アルコール消費量に応じてグループ 1 (0~5.0g/日)、グループ 2 (5.1~30.0g/日)、グループ 3 (30.1~75g/日) に分け、非分画血漿と HDL2a、HDL2b、HDL3 を含む非分画血漿で脂質を分析した。LDL コレステロールには群間で差が見られなかった。グループ 1 に比べてグループ 2 と 3 で HDL コレステロールの顕著な増加が認められ、HDL の脂質化 (HDL2 コレステロール/HDL3 コレステロール比) が促進されていた。さらにアルコール消費者では HDL のリン脂質の増加が見られたが、他の HDL 成分比は同じであった。多変量解析によって、アルコールは BMI および身体活動レベルに次いで HDL 分画の変化に重要な統計的影響を与えることが明らかになった。以上より、アルコール消費者で見られた HDL の脂質化の増加は HDL コレステロールの増加によって抗動脈硬化作用を増大させ、HDL のリン脂質の増加はアテローム生成の炎症反応を減少させる可能性があることがわかった。</p>	